

環境トップセミナー inオムロン(株)野洲事業所

- ・開催日：2014年12月18日（木）13：30～16：45
- ・見学先：オムロン株式会社野洲事業所
所在地 野洲市市三宅686-1
- ・主催：湖南・甲賀環境協会・参加者 会員32名 行政2名



オムロン(株)様は全社的に省エネの取り組みを全国展開されております。野洲事業所様も電力の遠隔監視通報システムにより24時間体制で電力使用をリアルタイムで監視し、省電力目標値・デマンド値の対策を進めておられます。

また、半導体の生産時、その洗浄水として、野洲川の伏流水を純粋に替え1,500トン/1日使用され、排水処理後公共河川に放流されており、放流水には細心の注意を払っておられます。

野洲事業所様は、特に先進的な生物多様性の保護に取り組んでおられます。『自然の恵みや資源を大切に守らなければものづくりはできない』というコンセプトのもと、工場敷地内に従業員の手作りによるビオトープをつくり、4年前から滋賀県琵琶湖博物館の依頼で絶滅危惧種のイチモンジタナゴ（ぼてじゃこ）の生育や生物多様性の保護に取り組んでおられます。そのプロセスや着眼点、ご苦労など紹介いただきました。

併せて基調講演として、結・社会デザイン事務所 代表の菊池 玲奈様より『持続可能な社会実現の為にキーワード 生物多様性』と題してご講演いただきました。開催後のアンケートから、『生物多様性の意義を再確認できた』『取り組みについてご苦労等聞かせていただいたことで大変勉強になった』とすべての参加者から感想をいただきました。

◆セミナーのごく一部を掲載させていただきます。

開会の挨拶



湖南・甲賀環境協会
堀田会長

受入企業代表のご挨拶



オムロン株式会社野洲事業所
所長 鈴木 健 様

基調講演

「持続可能な社会実現のためのキーワード『生物多様性』」

講師：結・社会デザイン事務所 代表 菊池 玲奈氏

温室効果ガスの削減は数値で示せるため、その取り組み安さから生物多様性より先行して取り組まれているが、本来生物多様性とは気候変動枠組条約（1992年温室効果ガスの明確な指標を示し、危険な気候変化を回避）と同時に生物多様性条約も採択されたもので、優先順位が後で良いというものではなく、同時に取り組むべきものである。



生物多様性の劣化は産業革命以降150年前より急激に進んだ。地球の46億年の歴史に比べるとあまりにも短い期間に人間活動によりもたらされた。人類によって引き起こされている生態系の絶滅速度は自然状態の100～1,000倍の速度である。人間活動と自然修復力のバランスを取り戻し、将来のよりよい関係を築くためには生物多様性を脅かす要因である、1. 生息地の損失と劣化 2. 過剰で非持続的な生物の利用 3. 外来種 4. 化学物質による汚染 5. 気候変動への課題に取り組まなければならない。

課題は地域によって異なるため、ローカルな課題の抽出と実践が重視される。

企業としては環境規制の遵守は生態系への損失を抑えていることであり、既に生物多様性保全に取り組んでいるともいえる。さらに社員による生態系の保全や自社製品を使った環境教育、生態系保全活動への寄付などの社会貢献を行なうことにより、企業のプラスの評価とブランド化によるビジネスチャンスにつながる。

最後に生物多様性に関する取り組みは「きれいである」「緑がある」という感性的なことと切り離し、しっかりと意味を理解する必要がある、植林やビオトープづくり、放流は方法を誤ると生物多様性の破壊につながる危険性もある。

◆オムロン株式会社、野洲事業所の概要と野洲事業所の環境の取り組み紹介

オムロン株式会社野洲事業所

所長 鈴木 健 様

会社概要

- ・設立 1948年
- ・従業員 約36,842名
- ・資本金 641億円

野洲事業所概要

- ・設立 2009年5月
- ・敷地面積 約4万2,000㎡
- ・従業員は約500名
- ・半導体・MEMS事業
(人・物体・気流の動きをなどが検出できるセンサ)



鈴木所長様がご持ちのミネラルウォーターは、オムロン阿蘇の工場敷地内から湧き出る水を使用した、くまもんのキャラクター入オムロン様ブランドです。

鈴木所長様より、会社概要、オムロン(株)様の環境活動、社会貢献活動、野洲事業所の概要、環境の取り組みのご紹介をいただきました。野洲事業所の環境の取り組みとしては、『琵琶湖と共生した事業活動』として、自然エネルギーの利用や高効率機器による省エネやエネルギー制御システム採用により、地球温暖化の抑制や事業所周辺河川の清掃や生物多様性保全など、びわ湖の水質保全に積極的に取り組んでおられます。

生物多様性へ取り組みとして、大量の水を使用する半導体の工場を保有する工場として『水を使った環境貢献はできないか?』とのことで、開発などによる琵琶湖の生態系の復元と琵琶湖の自然環境を次世代に引き継ぐ為、ビオトープを作られる事になったプロセス、ご苦労や完成後の効果、維持されるご苦労、地域の子ども達への自然観察会として環境教育、第6回淡水魚保全シンポジウム大会へのご参加等ご紹介いただきました。絶滅危惧種のイチモンジタナゴの繁殖事業への貢献を通じて、従業員の参加の環境教育、癒しの場の就業環境の提供、地域の子ども達が郷土の自然に対する愛を育む場、人と人とのつながりを感じられる場でありたいとのことでした。現在はタナゴちゃんキャラクターもあります。



イチモンジタナゴのえさとなるどぶ貝



従業員の手作りのビオトープ



放流水で鯉が元気に泳いでいます。



滋賀県南部環境事務所 松村所長よりご挨拶



ご参加いただきました皆様

最後になりましたが受入いただきましたオムロン株式会社の皆様、ご参加頂きました皆様誠に有り難うございました。